

小川／テーマに沿って話す。サブタイトルがある。その理由は話の中で説明する。

スライド1

ここに話のベースが含まれる。単純だが大切なので、ここから。

青文字の部分。

リアル・ニーズとは、本人の望む暮らしの実現に必要なこと。

それをどう把握するか。

① 私たちも何か依頼されたとき、嫌だと明確にする。または曖昧にして立ち去ることも。

障害者も意思表示が苦手でも表出している。その読み取りが大切になる。

② 障害児の親御さんから、こうしてほしいと依頼される。それを無視して、本人から聞き取る。これは短絡的な考え方。

親御さんは、その子や自分の将来を考えて語る。

親や家族の思いを否定しない。困り感を受け止める。経済や健康状態など家庭の状況を把握する。介護が必要な人かも。

家族の気持ちも受け止め、寄り添うのが大事。その上で、子の主体性を尊重する。本人の望む暮らしを、その中で追求する。

③ 望む暮らしに近づくために、赤文字の部分のプロセスが必要。支援者の聞き取りを通じて近づくともいえる。

そのとき、障害者に接する姿勢や態度が問題。相互作用が働くから。障害者も支援者の態度や姿勢を評価している。仕事だが対等な関係。

お互いに影響を受けると理解し、やりとりすべき。